設計業務等成績評定表(土木設計業務)

年 月 日

								年月	1 日	
委託	業務の名称	尓								
業務	务委託料		当初:	¥			最終: ¥			
履	行期間		当初:	年 月	日 ~	年 月 日	最終:	₣ 月 日 ~	年 月 日	
完月	战年月日					年 月	日			
完成相	负 查年月日	3								
受	注者名									
管理技	支術者氏名	7								
照查	支術者氏名	3								
担当技	術者氏名	1								
担当技	術者氏名	2								
担	.当課名									
担当	課長氏名									
調査	職員氏名									
検査	職員氏名)			
			調査職	査職 担当課 検査職		******	技術者評定点(注1)			
評	価項目		員評定 点	長 評定点	員評定点	業務評定点 (注1)	管理技術者	担当技術者	照査技術者	
	提案力、	改善力	0.0	_	_		0.0	0.0	_	
	業務執行	宁技術力	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	_	
専門技術力	施工時への配	概略設計 予備設計	0.0	ı	-		0.0	0.0	_	
	慮	詳細設計	0.0	1	-		0.0	0.0	_	
	コスト把握能力		0.0	_	_		0.0	0.0	_	
	工程管	理能力	0.0	_	_	0.0	0.0	_	_	
管理技術力	品質管	理能力	0.0	_	_	0.0	0.0	_	0.0	
	迅速性、弾力	性、調整能力	0.0	_	_	0.0	0.0	_	_	
コミュニケーション力	説明力、 プレゼンテ	協調性 ・ーション力	0.0	_	0.0	0.0	0.0	0.0	-	
組織姿勢 責任感、積極性、倫理観			0.0	0.0	1	0.0	0.0	0.0		
成果品の品質			0.0	_	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
①小計(注2)			0	0	0	0	0	0	0	
②業務執行に係る過失に伴う減点			ı	0	_	0	0	0	0	
③事故等による減点			ı	_	-	0	0	0	0	
④瑕疵修補又は	よる減点	-	-	_	0	0	0	0		
⑤その他			-	1	_					
総合評定点=(1)+2+0	3+4+5	_	_	_	0	0	0	0	

⁽注1) 各評価項目の評定点は、小数第二位を四捨五入して表示している。

⁽注2) ①小計は、小数第一位を四捨五入し整数とする。

項目別評定点(土木設計業務)

				1	技術者評 5	Ė	
評価項目 評価の視点			業務評定 (評定点/満点)	管理技術者 (評定点/満点) (注1)	担当技術者 (評定点/満点) (注1)	照査技術者 (評定点/満点) (注1)	
	提案力、	改善力	点 / 8.3 点	点 / 8.3 点	点 / 12.5 点	_	
	業務執行	宁技術力	点/ 16.7 点	点 / 16.7 点	点 / 25.0 点	_	
専門技術力	施工時への	概略設計・予 備設計	点 / 4.2 点	点 / 4.2 点	点 / 6.3 点	_	
	配慮	詳細設計	点 / 4.2 点	点 / 4.2 点	点 / 6.3 点	_	
	コスト打	巴握能力	点 / 4.2 点	点 / 4.2 点	点 / 6.3 点	_	
	工程管	理能力	点 / 8.3 点	点 / 8.3 点	_	_	
管理技術力	品質管理能力		点 / 8.3 点	点 / 8.3 点	_	点 / 66.7 点	
	迅速性、弾力性、調整 能力		点 / 4.2 点	点 / 4.2 点	_	_	
コミュニケー ション力	説明力、 プレゼンテ	協調性、 ーション力	点 / 4.2 点	点 / 4.2 点	点 / 6.3 点	_	
組織姿勢	責任感、積極	亟性、倫理観	点 / 8.3 点	点 / 8.3 点	点 / 12.5 点	_	
Б	果品の品質		点 / 33.3 点	点 / 33.3 点	点 / 31.3 点	点 / 33.3 点	
評定点	の小計(注:	2)	点/ 100 点	点/ 100 点	点 / 100 点	点/ 100 点	
業務執行に	係る過失に	半う減点	点	点	点	点	
事故等による減点			点	点	点	点	
瑕疵修補又	は損害賠償に	よる減点	点	点	点	点	
	その他		_	1	-	-	
総合割	平定点(注:	2)	点 /100点	点 /100点	点 /100点	点 /100点	

注) 1. 各評価項目の評定点及び小数第二位を四捨五入して表示している。 2. 評定点の小計は、小数第一位を四捨五入し、整数としている。

●設計業務成績採点表(土木設計業務) 技術者評定(注1) 業務評定(注1) 調査職員 担当課長 検査職員 評定点 管理技術者 担当技術者 照査技術者 評価項目 評価の視占 得占割合 評定点 得占割合 評定点 得占割合 評定点 加重平均占の質出 加重平均占の質出 加重平均占の質出 加重平均占の筧出 評定点 評定点 評定点 評定点 配点 得点 配点 得点 配点 得点 重み 12 重み (3) / 重み (13) 重み (3) / (4) (14) (14) (注1) (注1) (注1) (注1) 占押定占值 業務着手段階における業務 特性等の考慮 (⊕÷⑫×⑭ 2.0 (4)÷(2)×(4) | 2.0 | 0.0 / 8.3 4 ④=①=①' × 2/24 2.0 / 8.3 業務遂行段階における提案 〇 40 / 12.5 改善力 業務遂行上必要となる課題の提案 O 20 業務内容等改善の提案 O 20 0.0 0.0 0.0 100 8.3 8.3 12.5 小計 目的と内容の理解 O 20 必要情報の把握 O 20 1)=(1)' ×4/24 ④÷⑫×⑩ 4.0 (⊕÷@×⊕ 4.0 4 検討項目・検討手法 O 100 4.0 / 16.7 / 25.0 O 20 O 50 業務執行 技術力 打合せ資料の内容 O 20 0.0 0.0 十分な技術力 O 20 O 50 0.0 100 100 ②' = (4÷@×(4) 1.0 △ 60 4 施工に関する一般的な知識 / 4.2 (4)÷(2)×(4) 1.0 ④=①=①' × 1/24 1.0 / 4.2 / 6.3 設計」 備設計」 場合 施工条件等の把握 40 0.0 0.0 0.0 4.2 6.3 4.2 小計 100 (I)= 施工時 への配慮 施工に関する一般的な知識 △ 40 ④÷⑫×⑭ 1.0 ④=①=①' × ④ 施工条件の把握 △ 30 / 4.2 / 4.2 / 6.3 「詳細設 0.0 △ 30 0.0 0.0 施工計画(施工方法・仮設備計画) 100 4.2 6.3 小計 4.2 4÷@×4 ④÷⑫×⑭ 1.0 4 ④=①=①' × 1/24 / 4.2 / 4.2 コスト把握能力 O 100 1.0 / 6.3 0.0 0.0 0.0 把握能力 4.2 6.3 100 4.2 小計 (I)= 実施手順・工程計画 O 30 (4)÷(2)×(4) 2.0 実施体制 10 4 2.0 / 8.3 / 8.3 工程管理能力 打合せ内容の理解、記録 O 20 0.0 0.0 工程管理 40 小計 100 1)= 予備 ○ 100 詳細 ④÷②×⑭ 2.0 4=0=0' × 4 (4 ÷ (2 × (4)) 0.0 2.0 ミス防止の実施 2.0 / 8.3 / 8.3 / 66.7 品質管理能力 0.0 0.0 8.3 66.7 8.3 小計 当初計画の変更 O 40 (4÷(2)×(4) 1.0 ④=①=①' × ④ / 4.2 O 30 1.0 関連事業者間の調整 / 4.2 地元住民との合意形成 30 0.0 0.0 調整能力 小計 100 1)= 4.2 理解しやすい説明プレゼン O 30 テーション(資料) (4) ÷ (2) × (4) 1.0 (⊕÷®×⊛ 1.0 0.0 / 6.3 (4=0' ×1/24 ×1/10+3' × 1/24×9/10 4 理解しやすい説明プレゼン 説明力 O 30 1.0 / 4.2 / 4.2 O 100 協調性プレゼン テーション力 説明を補う努力 20 円滑な業務遂行への努力 0.0 0.0 O 20 0.0 4.2 小計 100 3= 6.3 ④=①' ×2/24 ×1/10+②' × 2/24×9/10 0.0 O 100 責任感・積極性 / 8.3 (4÷@×(4) 2.0 / 8.3 (4)÷(2)×(3) 2.0 0.0 / 12.5 2.0 責任感・積極性・倫理観 O 100 * 0.0 0.0 積極性倫理観 8.3 100 12.5 小計 100 ①' = ①= 8.3 0.0 4÷12×44 8.0 目的の達成度 O 40 O 40 (4=①' ×8/24 ×1/10+③' × 8/24×9/10 ④÷⑫×⑭ 1.0 (⊕÷@×⊕) 5.0 0.0 / 31.3 的確なとりまとめ O 30 O 30 / 33.3 成果品の品質 ミスの有無 O 30 O 30 0.0 0.0 0.0 0.0 33.3 33.3 小計 100 33.3 31.3 評定者の評定点(担当課長の業務執行に係る過失の減点は含まない 16.0 0.0 / 100.2 3.0 / 100.0 24.0 / 100.0 24.0 / 100.0 ⑤小計(注2) 100.0 100.0 ⑥業務執行上の過失 点 業務執行に係る過失に伴う減点 ⑦守秘性に伴う過失 点 ⑧事故等による減点(業務遂行段階を対象とする) 点 【口頭注意-3点 文書注意-5点 入札参加停止1月以内-10点 入札参加停止1月超-15点】 ⑨成果品に、受注者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約図書に記された手続きに従い、瑕疵補修又は損害賠償が実施された場合の減点 【瑕疵修補又は損害賠償の実施-10点 故意又は重大な過失による場合は-20点】 点 ①総合評定点の算定 総合評定点①=⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩ **0** 点 【調査職員】 【担当課長】 【検査職員】 は、評定対象外 ○ は、必須評定項目 △ は、選択評定項目 所 見 ◎ は、評定者の得点割合を示している。 注: 1. 各評価項目の「評定点」は、小数第二位を四捨五入して表示している。 2. 「⑤小計」は、小数第1位を四捨五入し整数とする。

		1 KB II -	-	得点率					
評	価項目	評価視点	配点	優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点		評価細目		
				評価細目チェック数				・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。	
		業務着手段 階における 業務特性等 の考慮	20	= 0⇒			注	・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調整・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。	
		業務遂行段		デ価細目チェック数 =0⇒ 「0.6」			注	・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。	
		階における 提案	40	=1⇒		200.000.000.000.000.000		ルに至り、従来がなされた。	
	提案力 改善力			評価細目チェック数				・当該業務で不足する課題が抽出された。	
	, , <u> </u>	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	= 0⇒		AMERICAN DE CANADA		・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。	
				評価細目チェック数				・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。	
		業務内容等 改善の提案	20	=0⇒ [0.6] =1⇒ [0.8]				・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。	
		3(1) 1031		10.6] =2⇒ [1.0]					
		小計	100	部1個細目デエツク数					
		目的と内容の理解		=0⇒ [0,2]		П		・業務計画書に必要事項が記載されていた。	
プェ			20	=1⇒ [0,4]				・当該業務の目的・内容が理解されていた。	
クロセス 調専門技術			20	=2⇒ [0,6]				・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。	
技術				=3⇒ 評価細目ナエ ^{「0} 00数				・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理 解されていた。	
評力		必要情報の 把握	20	=0⇒ 「0.2」 =1⇒ 「0.4」				・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。	
								・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。	
				=2⇒ [0,6]				・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。	
				=3⇒ =3⇒ 「0.8」 評価細目チェック数		П		・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。	
				評価細目ナエツク数 =0⇒ 「0,2」				・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。	
		検討項目・		=1⇒ [0,4]		Ш		・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合してい た。	
		検討手法	20	=2⇒ [0.6]				・業務目的に照らし必要な検討項目が不足なく設定され、検討項目 間の整合も図られていた。	
	業務執行 技術力			=3⇒ 「0.8」 =4⇒			注	・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技 術を活用するなど、難易度の高いものであった。	
				評価細目チェック数 =0⇒				・打合せ資料に大きなミスがなかった。	
		打合せ資料		「0.2」 =1⇒ 「0.4」				・打合せ資料に、業務を進めるにあたっての課題等が適切に盛り込 まれていた。	
		の内容	20	10.4j =2⇒ [0.6] =3⇒				・打合せ資料に、業務を進めるにあたっての課題解決策や提案等が 適切に盛り込まれていた。	
				0.8J =4⇒				・適用する諸基準類のない業務、若しくは難易度の高い業務等を進めるに あたり、的確な理論展開による説明が盛り込まれていた。	
				評価細目チェック数 =0⇒ 「0.2」		П		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書が十分に理解されていた。	
		十分な技術	20	=1⇒ 「0.4」 -2→				・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な 技術力を有していた。	
		力	20	=2⇒ [0.6] =3⇒				・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。	
				[0.8] =4⇒ [1.0]			注	・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分 対応できる能力を有していた。	
		小計	100	1					

評	福項目	評価視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点		評価細目
				評価細目チェック数 =0⇒ 「0,2」			・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識 を有していた。
	施工時へ	施工に関す る一般的な	60	=1⇒ [0,4]			・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。
	の配慮 [設計時	知識	00	= 2 ⇒ [0, 6]			・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有してい た。
	評価]			=3⇒ [0,8]			・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
				評価細目チェック数 _=0⇒			・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。
	概略設計	施工条件の	40	「0.2」 =1⇒			・当該地域の環境特性を把握していた。
	予備設計	把握	40	[0,4] =2⇒			・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。
				「0.6」 =3⇒ 「0.8」			・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報 を把握していた。
		小計	100				
				評価細目チェック数 =0⇒ 「0.2」			・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識 を有していた。
	の配慮 [設計時 証価]	施工に関す	40	=1⇒ [0.4]			・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。
		る一般的な 知識	40	= 2 ⇒ [0, 6]			・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。
プ専ロ				=3⇒ [0.8]			・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
ロセス証				評価細目チェック数 =0⇒			・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。
評型		施工条件の	20	「0.2」 =1⇒			・当該地域の環境特性を把握していた。
価		把握	30	「0.4」 =2⇒			・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。
				「0.6」 =3⇒ 「0.8」 評価細目チェック数			・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報 を把握していた。
				=0⇒			・必要事項を記載した施工計画書が提案された。
	詳細設計	施工計画		「0.2」 =1⇒		П	・施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設計画が提案された。
8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	✓	(施工方 法・仮設備 計画)	30	「0.4」 =2⇒ 「0.6」			・工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備 計画が提案された。
		n 四/		=3⇒ [0.8] =4⇒			・当該工事箇所における施工上の留意事項が、重要度別かつ施工段 階毎に適切に整理する提案がなされた。
		小計	100	1			
				評価細目チェック数 =0⇒			・工事費に関するコスト把握能力を有していた。
		コスト把握		「0.2」 =1⇒			・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。
	コスト	能力	100	「0.4」 =2⇒			・コスト縮減に係わる提案があった。
	把握能力			「0.6」 =3⇒ 「0.8」			・ライスサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念 頭においたコスト縮減に係わる提案があった。
		小計	100	1			

評	·価項目	評価視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
				評価細目チェック数 =0⇒		・契約書等に記載された期限内に業務工程表が提出され、速やかに 業務の着手がなされた。
		実施手順・	30	「0.2」 =1⇒ 「0.4」		・業務実施方針及び工程表には、設計図書に示された事項が適切に 反映されていた。
		工程計画	00	=2⇒ 「0.6」 =3⇒		・業務実施方針又は詳細な工程表には、業務実施上のポイントとなる工程目標等が具体的に示されていた。
				「0.8」 =4⇒		・作業(調査、検討、設計)項目間の実施手順が適切に計画されて いた。
				評価細目チェック数 =0⇒		・契約図書に基づき、管理技術者届け及び業務計画書が提出された。
		and the fit find	1.0	「0.2」 =1⇒ 「0.4」		・業務計画書に示された業務組織計画書に基づく実施体制により、 業務が履行された。
		実施体制	10	=2⇒ 「0.6」		・配置された担当技術者若しくは照査技術者は、業務内容に応じた 技術者が配置され、適正に履行された。
				=3⇒ 「0.8」 =4⇒		・業務計画書(業務組織計画書)に示された実施体制は、本業務の 履行に対して十分な体制であった。
	工程管理			評価細目チェック数 =0⇒		・打合せ記録簿が、打合せ後速やかに提出された。
	能力	打合せ内容		Γ0.2J =1⇒ Γ0.41		・打合せ記録簿の記載内容が打合せ結果を適切に反映し、打合せ後 の進め方や懸案事項等が的確に整理されていた。
		の理解、記録	20	=2⇒ 「0.6」		・受注者内(再委託先等を含む)意思疎通がなされ、指示や打合せ 事項が、その後の資料等に適切に反映されていた。
				=3⇒ 「0.8」 =4⇒ 「1.0」		・打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打合せ 内容が理解された。(打合せ後に不明点等に対する問い合わせ等を 発注者に行うことはなかった。)
プロ質				評価細目チェック数 =0⇒ 「0.2」		・指示や注意を行う必要のあるような工程の遅れや、履行期限内に 納品されない等はなかった。
ロセス評価「理技術力		工程管理	40	$ \begin{array}{c} $		・設計図書に基づく作業状況の報告、履行報告等を適切な時期に提 出していた。
(評) (計)		-1217				・関連する他の業務や工事等に影響を及ぼすことなく完了出来た。
1Щ				-3→ 「0.8」 =4⇒		・履行中のポイントとなる工程目標等も含め、全体を通して工程計画どおり完了できた。
		小計	100	1		
	品質管理					・「業務計画書」における「成果品の品質を確保するための計画」 に記述された内容とその活動を適切に実施した等、品質の管理がさ れたことを確認できた。
	能力	ミス防止の 実施	100	評価細目チェック数 =0⇒「0.6」 =1⇒「0.8」 =2⇒「1.0」		・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行われ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. 1809001等の認証取得状況と成果への反映の確認)
	概略設計					
	予備設計					
		小計	100	1)		
						・業務計画書等に照査体制、照査計画等が記載されていた。
	品質管理 能力			評価細目チェック数		・業務計画書等の照査担当者が配置されていた。
	詳細設計	ミス防止の 実施	100	$= 0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $= 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ $= 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $= 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$		・照査報告書等の品質管理の記録により、照査が実施されたことを 確認できた。
	詳細設計			=4⇒ 「1.0」		・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行われ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. ISO9001等の認証取得状況と成果への反映の確認)
	✓	小計	100	1)		

	評価項目		評価視点	配点	得点率	得点	評価細目		
			V-1		1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 評価細目チェック数			・業務遂行中に生じた、当初工程計画や業務内容の変更要請、あるいは調査職員の指示等に迅速に対応した。	
			当初計画の 変更	40	$=0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $=1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $=2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$			・その結果生じた検討内容が特に優れていた。	
					評価細目チェック数			・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、関連 事業者間の調整に係わる提案資料が作成された。	
		迅速性 弾力性 調整能力	関連事業者 間の調整	30	$= 0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $= 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $= 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$			・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。	
	力				評価細目チェック数			・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、地元 住民等との合意形成(円滑な業務履行の確保に資する地元等への配 慮等を含む)に係わる提案資料が作成された。	
			地元住民との合意形成	30	$=0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $=1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $=2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$			・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。	
			小計	100	①				
プロ					評価袖目アエツク数 =0⇒ 「0.2」 =1⇒ 「0.4」			・日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となってい た。	
セス			理解しやすい説明プレゼン	20				・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。	
評価			テーション (資料)	00	=2⇒ [0,6]			・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。	
II					=3⇒ 「n 8」 評価細目チェック数			・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができ た。	
			理解しやすい 説明プレゼン		計画和目テエック数 =0⇒ 「0.2」			・打合せ開始時に、打合せの主旨・目的が説明された。	
	コ				=1⇒ [0,4]			・質問に対し的確な回答がなされた、又即答できない場合には回答 期限が提示された。	
	3		テーション (対応)		=2⇒ [0.6]			・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。	
	ユニュ	説明力 協調性プ	(2,1,10)		=3⇒ 「0.8」			・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に 理解できた。	
	ケー	レゼンテーショ			評1回和日ナエップ分数 =0⇒			・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。	
	ショ	ンカ	説明を補う努	20	「0.2」 =1⇒			・説明が不十分な場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。	
	ン 力		力 力	20	[0.4] =2⇒			・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。	
	/3				[0.6] =3⇒ [0.8]			・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。	
			50.000.00.00.00.00.00.00.00.00.00.00.00.					・密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。	
			円滑な業務遂 20 =0⇒「0.6」		評価細目チェック数 =0⇒「0.6」 =1⇒「0.8」 =2⇒「1.0」			・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。	
			小計	100	0				

	評価項目		評価視点	配点	得点率 優 標準 劣	得点	評価細目
プロセス評価	取	責任感積極性倫理観	責任感 積極性	100	評価細目チェック数 = 0 ⇒ 「0.2」 = 1 ⇒ 「0.4」 = 2 ⇒ 「0.6」 = 3 ⇒ 「0.8」		・管理技術者・照査技術者・担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。
			小計	100	1		
結		成果品の品 質	目的の達成度	40	評価細目チェック数 =0⇒ 「0.2」 =1⇒ 「0.4」 =2⇒ 「0.6」 =3⇒ 「0.8」 評価細目チェック数 =0⇒ 「0.2」 =1⇒		・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。 ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。
果評価	成		とめ	30	「0.4」 = 2⇒ 「0.6」 = 3⇒ 「0.8」 = 4⇒ 評価細目チェック数		・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。 ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。
			ミスの有無	30	$ \begin{array}{c} $		・成果品の品質に大きく影響を及ぼす表記・計算等のミスは認められなかった(容易に修正できる)。 ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 ・必要書類も整備されていた。
			小計	100	1		

注 :原則評価しない。

●評価表(土木設計業務) ②〔担当課長用〕

	評信	西項目	評価視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点		評価細目	
	専門技術力	業務執 行 技術力			右記評価細目の該当項目を総合的に判断して「0.2」「0.4」「0.6」(基準点)「0.8」「1.0」を付与する。			・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 ・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 ・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。	
プロ			その他の欄に記は、その理由を		すること。基準点を下回ずその他の欄に記入する ②			理 由 :	
セス評価		責任感性 備理観	小計 100 責任感 積極性 100 倫理観		右記評価細目の該当項目を総合的に判断して「0.2」「0.4」「0.6」(基準点)「0.8」「1.0」を付与する。	O 0. 2 O 0. 4 O 0. 6 O 0. 8 O 1. 0		・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 ・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 ・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、業務を完成させた。	
			その他の欄に	こ記入で	画の場合は、その理由をすること。基準点を下回ずその他の欄に記入する	る評価の場合		・その他 理 由 :	
			小計 100		2		process named as a second		
業務執行に	業 務 執 業務執行		·上の過失		評価細目チェック数 1 つ毎に 3 点減点 行上の過失				・業務執行上、指摘又は指導等を行ったが、改善されなかった。 ・関係者から苦情が寄せられるなど、問題が認められた。又は、問題発生時の情報連絡等、対応が適切に行われなかった。 ・業務処理のミスにより大きな手戻りが生じた。 ・業務実施体制に問題があった。
係る過失に伴う				6			・その他 理 由 :		
減	減		伴う過失		評価細目チェック数1つ毎に 3点減点(チェックは1つま で)			・業務に関する情報漏えいがあり、受注者の責任によるものと発注者が判断した。 ・その他 理 由 :	
					7				

			9		得点率		
	評	価項目	評価視点	配点	優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
							・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。
			検討項目・		評価細目チェック数 = 0⇒ 「0.2」 = 1⇒ 「0.4」 = 2⇒ 「0.6」 = 3⇒ 「0.8」		・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。
			検討手法	50			・業務目的に照らし必要な検討項目が不足なく設定され、検討項目間の整 合も図られていた。
	専			AND	=4⇒ 「1.0」	10 AN	□ 注 ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活 用するなど、難易度の高いものであった。
	門技術	業務執行 技術力			評価細目チェック数		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。
プ	力		十分な技術	50	$ \begin{array}{l} =0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor \\ =1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor \end{array} $		・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力 を有していた。
ロセス			力	00	= 2⇒		・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示された事 項について十分満足できる解決が図られていた。
へ評価							・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応で注 きる能力を有していた。
			小計	100	3		
	コミ						・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に 区別されていた。
	그	説明力協調性プ	性プ調性・プルゼンンテーション力		評価細目チェック数 $=0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ $=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。
	ケーシ	レゼンテーショ					・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。
	ション	ン力			1		・説明当事者の説明が十分なされた。または、説明が不十分な場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
	力		小計	100	3		
			目的の達成 度	3 411	評価細目チェック数		・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。
					=0⇒ [0.2] =1⇒ [0.4]		・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。
					$= 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $= 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$		・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。
					=4⇒ 「1.0」		□ 注 · 高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。
					評価細目チェック数		・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を漏れなく取りまとめている。
結			的確なとり	20	$= 0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $= 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$		・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。
果評	成身	界品の品質	まとめ	30	$=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読 みやすい。
価				AND	-4→ ·1.0j	50 AN	・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点 が理解しやすく取りまとめられている。
					評価細目チェック数		・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。
			ミスの有無	30	$= 0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ = 1 \Rightarrow \left\[0.4 \right\]		・成果品の品質に大きく影響を及ぼす表記・計算等のミスは認められなかった(容易に修正できる)。
			11/11/		$=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ $=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。
					=4⇒ 「1.0」		・必要書類等も整備されていた。
			小計	100	3		〉 · 医胆迹压) * 2

注 :原則評価しない。